

## 令和3年度第1回福岡市文化財保存活用地域計画策定協議会 議事要旨

■日 時：令和3年7月20日（火）10:00～12:00

■会 場：赤煉瓦文化館 会議室3

■出席者：

【委員】有馬学（会長）、佐伯弘次（副会長）、石蔵利憲、辻田淳一郎、徳永美紗  
西村真規子、三苫雄一、箕浦永子、山下永子

【オブザーバー】杉原敏之（福岡県）

【事務局】文化財活用部長、文化財活用課長、文化財活用課歴史資源活用係

【関係課・WG】埋蔵文化財課課長、埋蔵文化財センター所長、史跡整備活用課長  
福岡市博物館運営課長  
福岡市文化財保存活用地域計画策定ワーキンググループメンバー

≪質疑・意見≫

### 福岡市文化財保存活用地域計画（案）について

#### ●重点施策（調査研究）について

委員A：現状は各システムがバラバラなので、理想的には使い勝手の良いデータベースを望む。例えば、京都府の東寺百合文書はWEB上で2万点以上の古文書の写真を全て公開しており、非常に使い勝手が良い。写真の公開は所有者の合意が必要だが、できるだけ公開してほしい。

→事務局：公開にあたっては言われるように所有者の合意が前提となる。埋蔵文化財など比較的写真の公開がしやすい文化財から取り組んでいきたい。

→委員B：先日、国会図書館では保有する全資料のテキストデータ化を進めていく報道があった。LINEのOCRプログラムを利用して自動化するようだ。こうしたことが実際に動いている時代である。こうした動きに合わせて考えていかななくてはならない。

→委員B：データ化に向けて考えなければいけないことが大量にあり、全部自前で行うのは非現実的ではないかとも思う。動いているものと関連させていくことを考えていくべき時代と思う。

委員C：市民に知ってもらうという観点からも、市民が自発的に編集したくなるような仕組みがあると良い。そのような時にはデータが公開されてあるという事が必須であり、まずは公開を早めにしたほうが良い。

委員C：去年アマビエが広く普及したが、京都大学が画像を公開したことで市民や事業者が利用しキャラクター化や商品化などが進んだ。

委員D：データベース化するものの優先度を決めたほうが良い。2000年都市といっても定着するまでには時間がかかると思う。計画書の中に2000年の年表もない。2000年都市を示すものを優先的にデータ化したほうが良い。

→委員B：目に見えないものを認識してもらう手法を検討していかなければならない。

●重点施策（保存管理）について

委員 C：災害復旧で言うと文化財の点群データをあらかじめ準備していることが有効。自前で作ると大変だが、ワークショップなどで市民が楽しみながら 3D データをつくっていくような仕掛けも一つの方法ではないか。

委員 E：修理事業者のデータベース化は、県内だけでなく九州一円でリスト化すると良い。データベースができて使い勝手がよくないといけない。保存樹であれば市に相談すると樹木医を紹介してもらえるような仕組みがあるが、建築物についても、ちょっと困った時に専門家のアドバイスをすぐに受けることができるような仕組みの中にデータベースがあると良い。

→事務局：福岡市では数年前からヘリテージマネージャーの育成に取り組んでいる。ヘリテージマネージャーと連携し、所有者とうまく繋げていくような取組が必要。

→事務局：修理事業者のリスト化は国や県とも連携していく必要があると感じている。

●重点施策（活用）について

委員 F：MICE 振興について、コロナ禍の状況について触れたほうが良い。現地に行かないと触れることができないがそれが大事だということを課題として含めたほうが良い。博物館や美術館などの既存の施設を記載する場合にはさらに使いやすくなるような記述をしてもらいたい。

委員 F：一方、現地に行くことが重要だが価値の共有という意味では、現地に行かなくても、伝統芸能の披露や伝統工芸をお土産とするなども MICE 振興につながる。また、MICE 参加者が文化財保護の体験プログラムに参加するような、参加者が SDG s に貢献するようなことについても追記してもらえたらと思う。

→委員 B：コロナの問題は限定的な問題ではなくなってきている。本来は望ましい行為が全否定されるような状況になっている。そうしたコロナの状況からも書かれているほうが良い。

委員 G：コロナの中で、まずは自分たちの住んでいる地域の歴史文化を知ることは今後の観光振興を考えたうえで重要。市内全域での展開は難しいので、まずはモデル的に展開できると良い。

委員 G：昔と今は技術も違う。先端技術を活用した学びの場などがあると子供たちも興味を持てるのではないか。

→委員 B：地域計画は地域住民による地域内観光の展開がしやすいような計画の性質を持っている。そのような地域活動の指針になることが望ましい。「コロナの状況下」というような書き出しで書き加えてほしい。

委員 D：「公開」だけが他の項目に比べ浮いている印象。客観的に見るとなんのためなのか伝わりにくい。「発見」や「共有」などの言葉もあるのでは。

→事務局：「公開」は「活かす」を全て貫く概念として使用しているが、ご指摘を踏まえて言葉の使い方は検討したい。

委員 H：計画書が誰に向けて作ったものかと考えた時に文化財に関心を持ってもらう入口として、若者や教育関係者などに読んでもらえるようにしてもらえるといいと思う。

→事務局：全体の考えを整えてきたが、今回の検討では重点施策に集中し、近視眼的になつていたいように思う。全体の流れも改めて整えていきたい。

### ●重点施策全般について

関係課：歴史構想を策定した時には、文化財の保存活用の取組について、広く市民が理解できるように、難しい言葉遣いを避けて、キーワードを「知る、守る、活かす」とした。実際の取組を通して、それらキーワードが実際示すところは、以下のようなことなのか、と再認識している。

「知る」は、文化財そのものの存在を認識・把握、その情報化、そして情報の体系化と流通を図ること。

「守る」は、文化財個々の実体の保全をはかること、埋蔵文化財など見えないものを実体化させていくことも含んでいる。

「活かす」は、文化財の情報と実体が帯びている価値を広く共有化し、新たな資源性を発露・稼働させること。

文化財の保存活用の取組をふわっとしたキーワードに集約させたことで、そこからイメージする実質がブレブレになっていると思う。

文化財関係者は何となく理解をしているが、重点施策では、ふわっとしたままにせず、もう少し厳密に考えても良いのではないか。

重点施策が個々バラバラのアクションに見える。アクションの上に概念的なところも書いていくといいと思う。

関係課：「知る、守る、活かす」は独立したものではなく、クロスオーバーの考え方も必要である。夏の時期など史跡をきれいに維持することは大変だが、福岡城では SNS を活用し、「福岡城御掃除之者」という実在した役職になぞらえてボランティアを募集した。募集の際には史跡の維持管理といった社会貢献を前面に出さず、参加者自らが楽しむイベントとして告知をしている。情報発信をするにしても、その先に何があるのかを考える必要がある。また、連携の重要性を説いているが、連携することは手段であり、何のために連携をするのか、連携をしないと何が損なわれるのかを改めて考え直したほうが良いのではないか。文化財にかかわるアクションの一つ一つをクロスオーバーさせることの工夫があるといいと思う。

関係課：今次の計画上では、文化財の価値を発露させるフィールドとしてまず観光振興、地域振興、学び・教育として挙げていると思うが、例えば認知症患者の記憶を呼び起こすものとして文化財の活用が考えられたりしており、価値を発露するシーンは

年々拡大・多様化を見せている。

委員 B：歴史や文化財に関連するゲーム等が出てきた時に専門家がどのような姿勢で捉えるかを考える必要がある。最初の入口としてまずは関心をもってもらい徐々に本質的なものに興味を持ってもらえばよいという姿勢は間違っているのではないか。入門編の奥に本質があって最後に本質にたどり着いて欲しいというのは違うと思う。

委員 B：現在起こっている一連の流れは、文化財関係者が行ってきた既存の普及啓発の流れを飛び越えており、文化財の拡張の速度に当事者がついていけない。例えば熊本城は文化財的には価値のない大天守の復元が優先された。我々のような専門家はそのような流れを軽視していたが、復元された天守閣を見た市民は涙を流していた。このような現象や流れを本質的ではないと一概に排除して良いのかを真剣に考えていかなければならないと感じている。そう言った中での地域計画の策定は大変な作業と思っている。

委員 I：前回から比べ重点施策が精査されているが、建造物に関する重点施策が少ない印象がある。いままでの発言があまり反映されていないのは残念である。福岡市には建造物課がないのであまり具体的な事業が上がってきてないのだろう。

→事務局：具体的な建造物は挙げられてないが、所有者の支援や防災、修理に関することなどでできるだけ対応していきたいと考えている。

委員 I：重点施策とメインストーリーとエリアの関係を示しているが、ストーリーやエリアに関連していないものもある。バランスが偏っている印象がある。

→事務局：すべてを今後 5 年間で行っていくのは困難なので偏りが出ている。すべてのストーリーやエリアを拾う考えはない。

福岡県：7月に久留米市と宗像市の地域計画が文化庁に認定された。そこでは自治体ごとのオリジナリティが重要視されている。福岡市では 2000 年都市を前面に打ち出して書かれているように思う。弥生時代から近世・近代まで文化財でつなげることができる都市は福岡だけである。全体を貫くことを表現してもらうことが地域計画では大切と思う。

→事務局：すべてのストーリーやエリアを拾う考えはないと話したが、5 年間でやることで拾えないかもしれないが、次の 5 年間で拾い上げるといった長期的な中で考えていきたい。

以上